



府中市議会基本条例 検証ワークショップ2026

～条例に基づく活動の振り返りと検証プロセスの試行～

報告書

府中市議会
令和8年6月10日



議会基本条例の検証方法は、議会運営委員会のこれまでの議論から、
①定期的な検証、②統一フォーマットによる検証、③第三者による検証
のうち、合意できた①について任期中に1度(3年目4月頃)の実施が
決定し、18条の逐条解説に明記された。

今回、来期からの実施をめざし、令和8年4月に試行的に行った。

(条例の検証等)第18条

議会は、この条例の目的が達成されているかどうかを検証し、必要に応じてこの条例の改正その他の適切な措置を講ずるものとする。

(目的)第1条

この条例は、二元代表制の下、府中市議会の果たすべき役割を明らかにするとともに、議会に関する基本的事項を定めることにより、議会が市民の負託に応え、もって市民福祉の増進及び市政の発展に寄与することを目的とする。

開催目的

議会基本条例を理解し、本条例に掲げる目的(第1条)が達成できているかを議会(議員全員)が各条文に照らして定期的に点検し、確認し合う作業をもって検証(第18条)することを目的とする。



開催方法

開催目的に基づき議員全員が等しく参加できる方法として、少人数グループ(5～6人×5組)によるワールドカフェ形式で開催。章別にグループワークで自身の振り返りと互いの意見交換を行った。



グループワークの進め方

①参加者自身の振り返り

→各自の評価をもとに発表

②意見交換／評価と課題

→お互いの受け止め方の違いなど認識

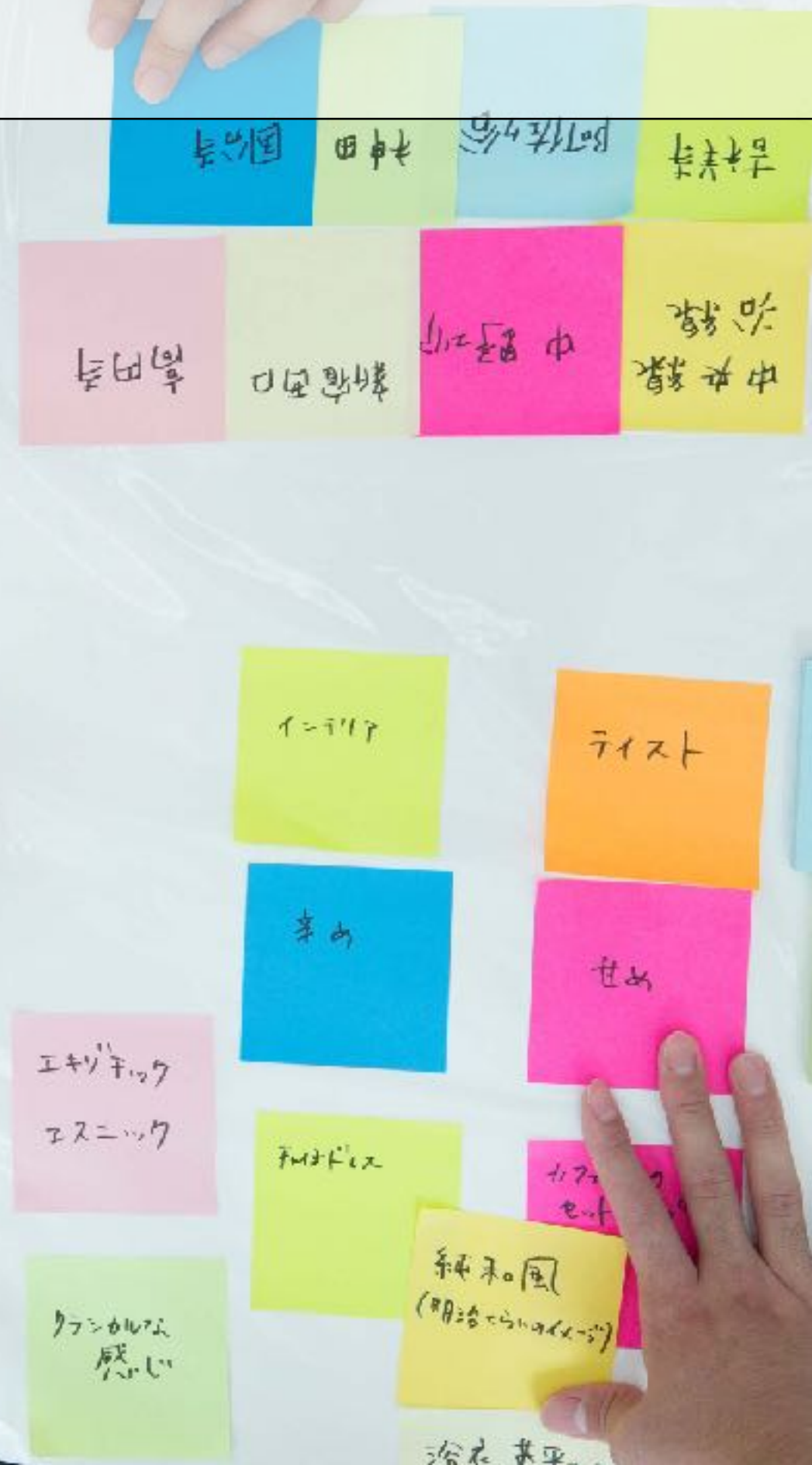
→過去の思い当たるケースなどあれば

③自身の意見・気づきを 付箋に書く

→リーダーがグルーピング

④3ラウンド終了後、まとめ

→各グループから発表



検証ワークショップ グループワークの流れ

日時:4月13日(月)13:00-17:15

会場:市議会 委員会室

13:00-13:30 オリエン/前文+1章

13:30-14:20 2章[2~5条]

14:30-15:30 3-4章[6~10条]

15:40-16:30 5章[11~17条]

16:30-17:20 グループ別発表・まとめ



①グループワーク



グループC



グループB



グループA



グループD

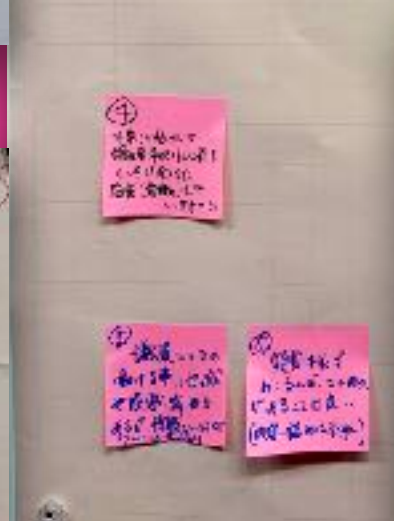
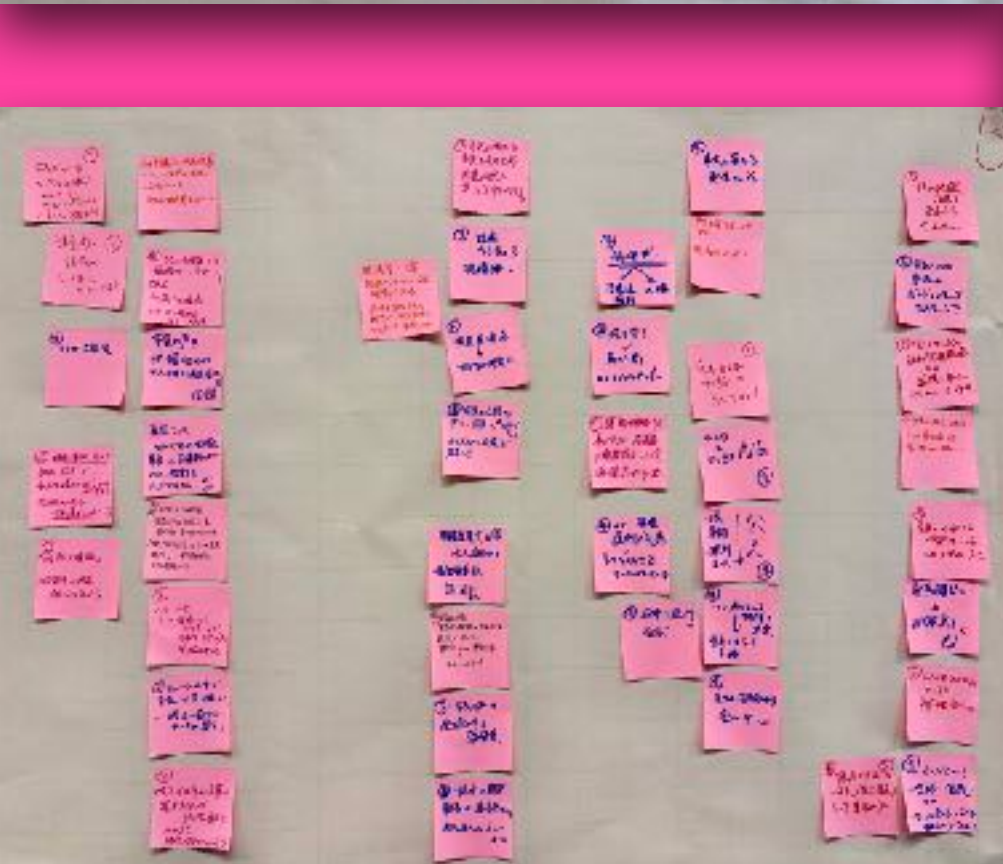
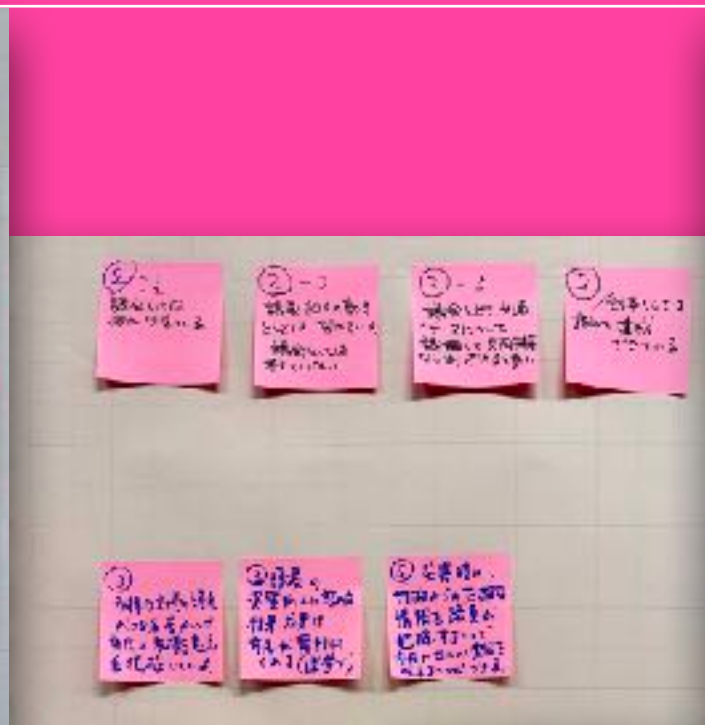
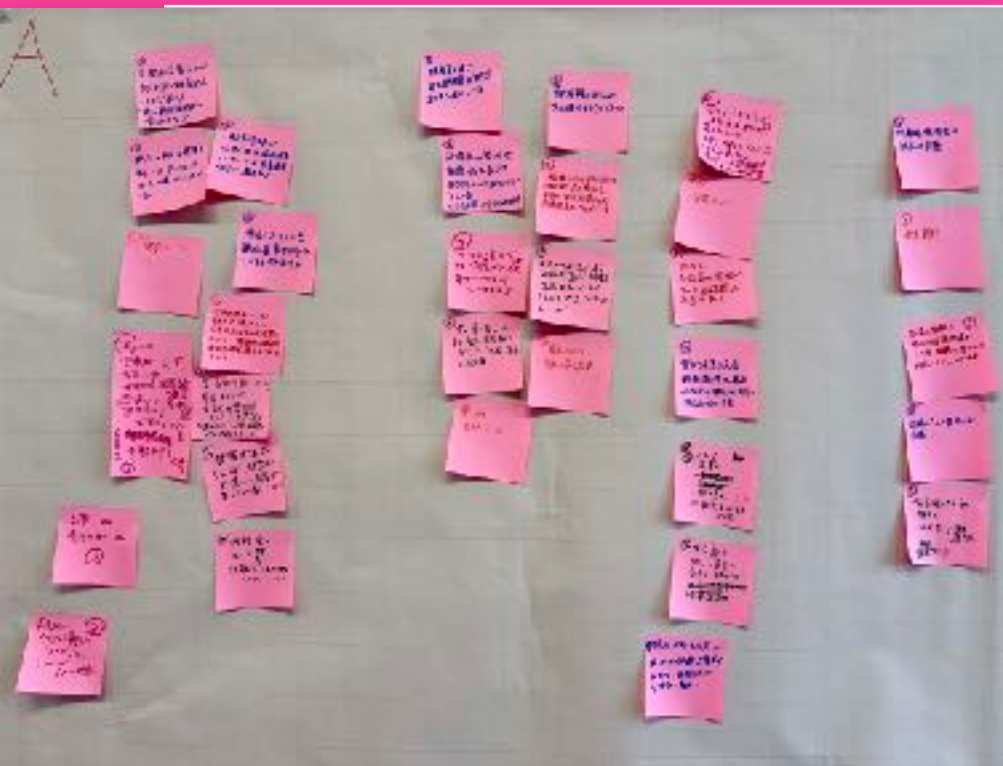


グループE

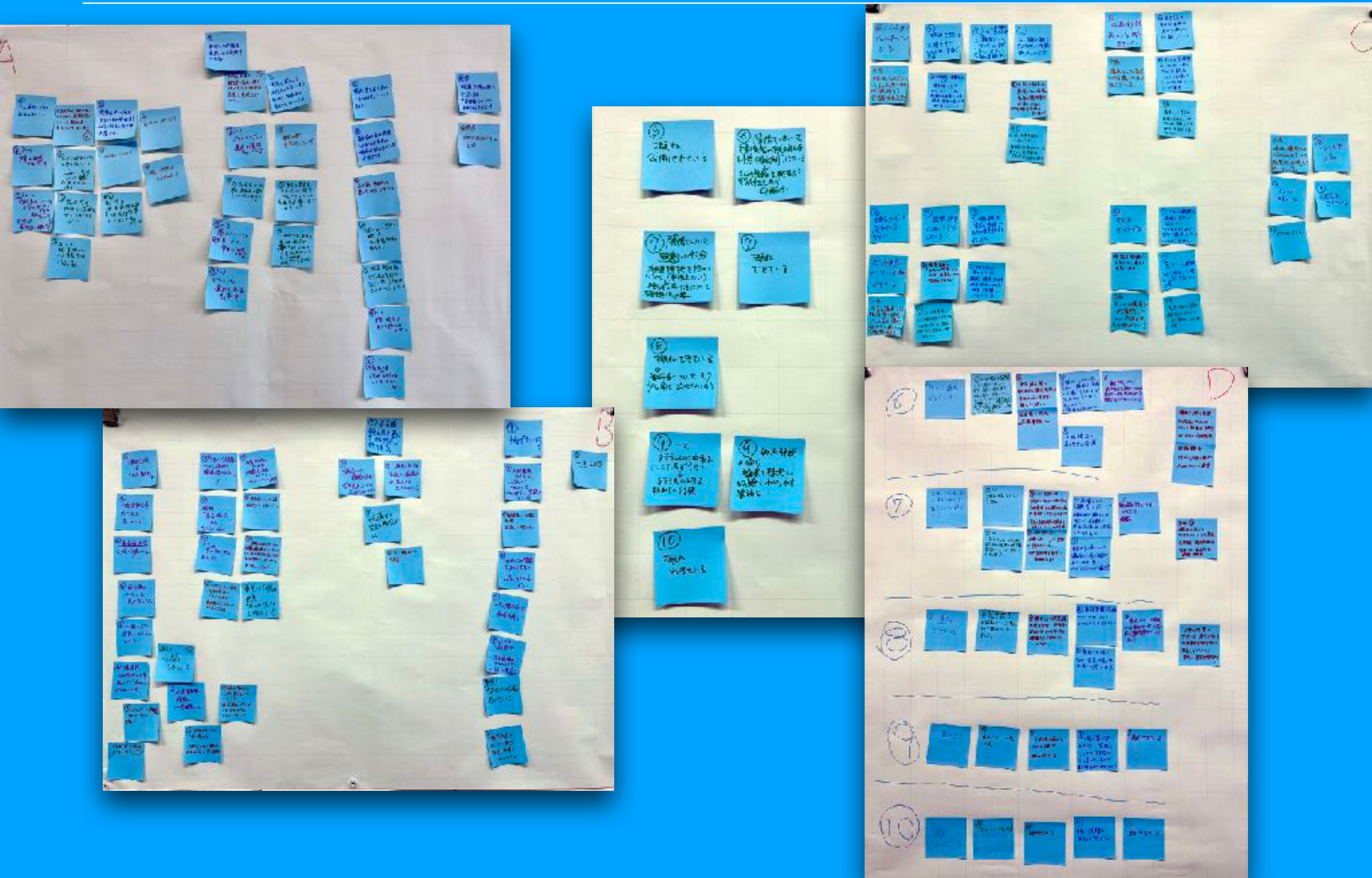
各条について自身の振り返りと互いの意見交換を行った。

各グループでの会派や期数を越えたフラットな対話により、特に新人・若手議員にとっては条文の定義や議会・議員活動などへの理解がより深まった。

①グループワーク:2章[2~5条]各グループのワークシート



①グループワーク:3-4章[6~10条]各グループのワークシート



①グループワーク:5章[11~17条]各グループのワークシート



①グループワーク:発表

グループの代表による発表は、まとめのための時間が十分に確保できなかったことや発表スタイルの統一感など課題が残った。



①グループワーク

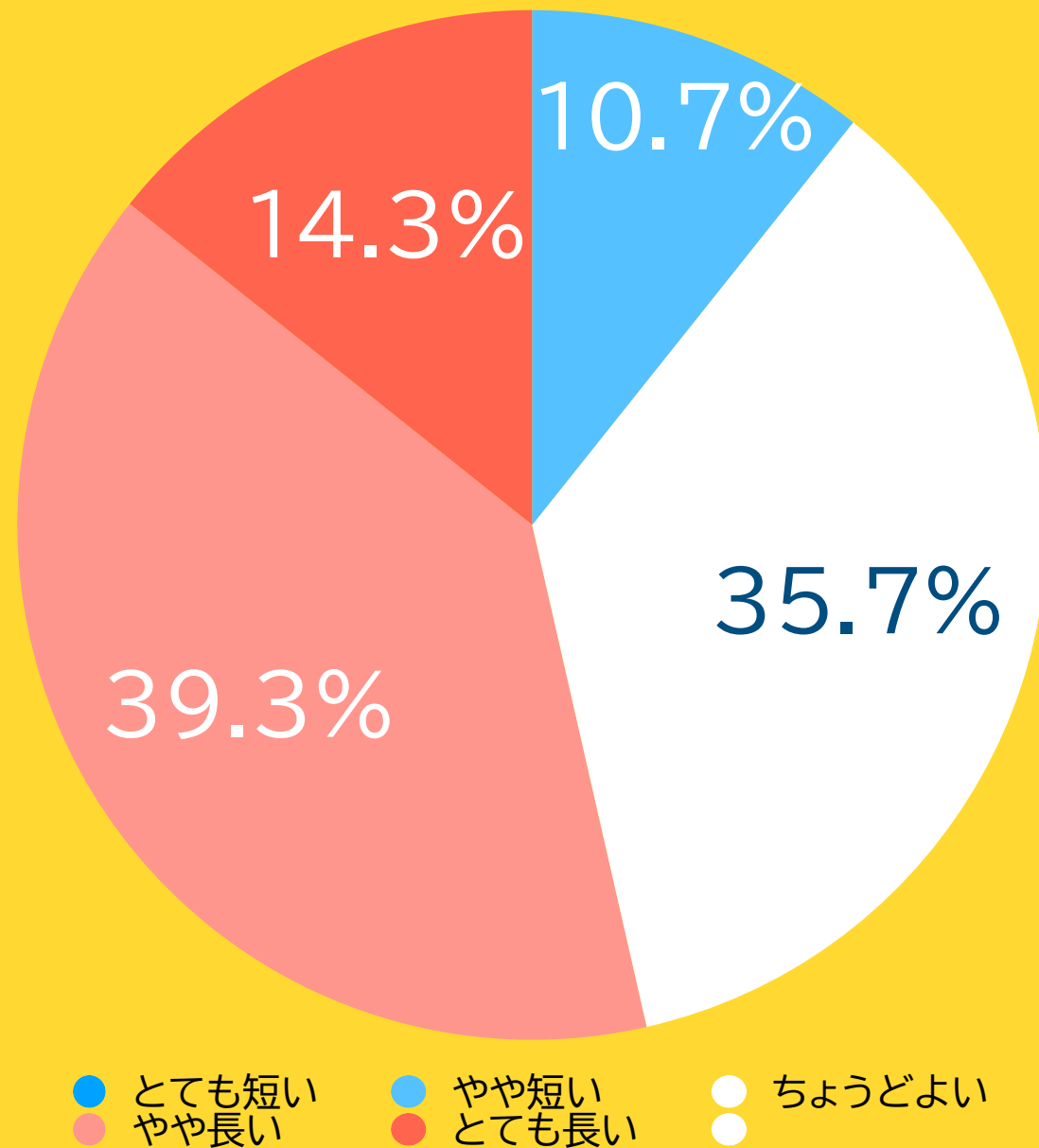
議会・議員・会派等の活動は概ね条例趣旨に沿って適切に運用されているとの肯定的評価が多く見られた一方で、自由な議論や議員間討議の運用の明確化、市民意見の吸収・反映のしくみ強化、情報発信のデジタル活用、政策立案・提言機能の充実、倫理意識の継続的向上、災害時対応の実効性検証のほか、会派間の合意形成や議決責任の在り方、議会図書室の活用促進、議会事務局機能のあり方など多様な意見が出された。意見が共通する大きな課題は見られなかったものの、今後の議会改革に向けたヒントになるものと考ええる。

②実施後アンケート結果

ワークショップ終了後、参加した全議員にアンケートを実施。28名全員が回答した。
4時間20分という長丁場のワークショップながら、全体として満足度は高く、有意義な取り組みであったことがデータから読み取れた。

②実施後アンケート結果

実施時間の長さ



とても短い～とても長いの5段階評価

とても短い→0名

やや短い→3名

ちょうどよい→10名

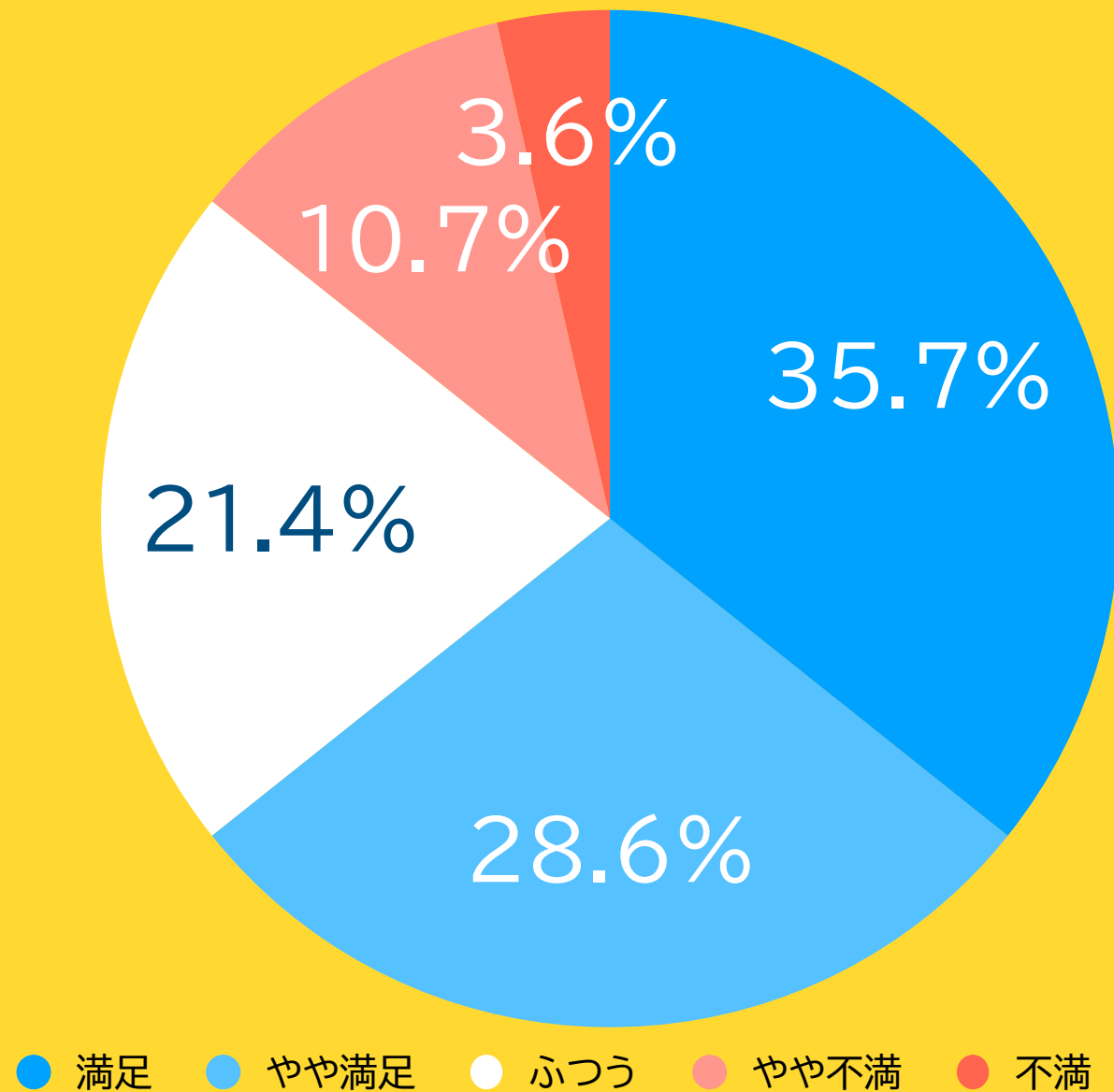
やや長い→11名

とても長い→4名

ワークショップの時間(4時間20分)はいかがでしたか?の問いに対し、
「やや長い」「とても長い」を合わせた回答が15名と全体の53.6%と半数以上。
長時間の実施は、内容の充実度とのトレードオフとして今後の検討課題。

②実施後アンケート結果

今回の取り組みへの満足度



満足(5)～不満(1)の5段階評価／

平均3.82

ポジティブ回答:64.3%

5→10名

4→8名

3→6名

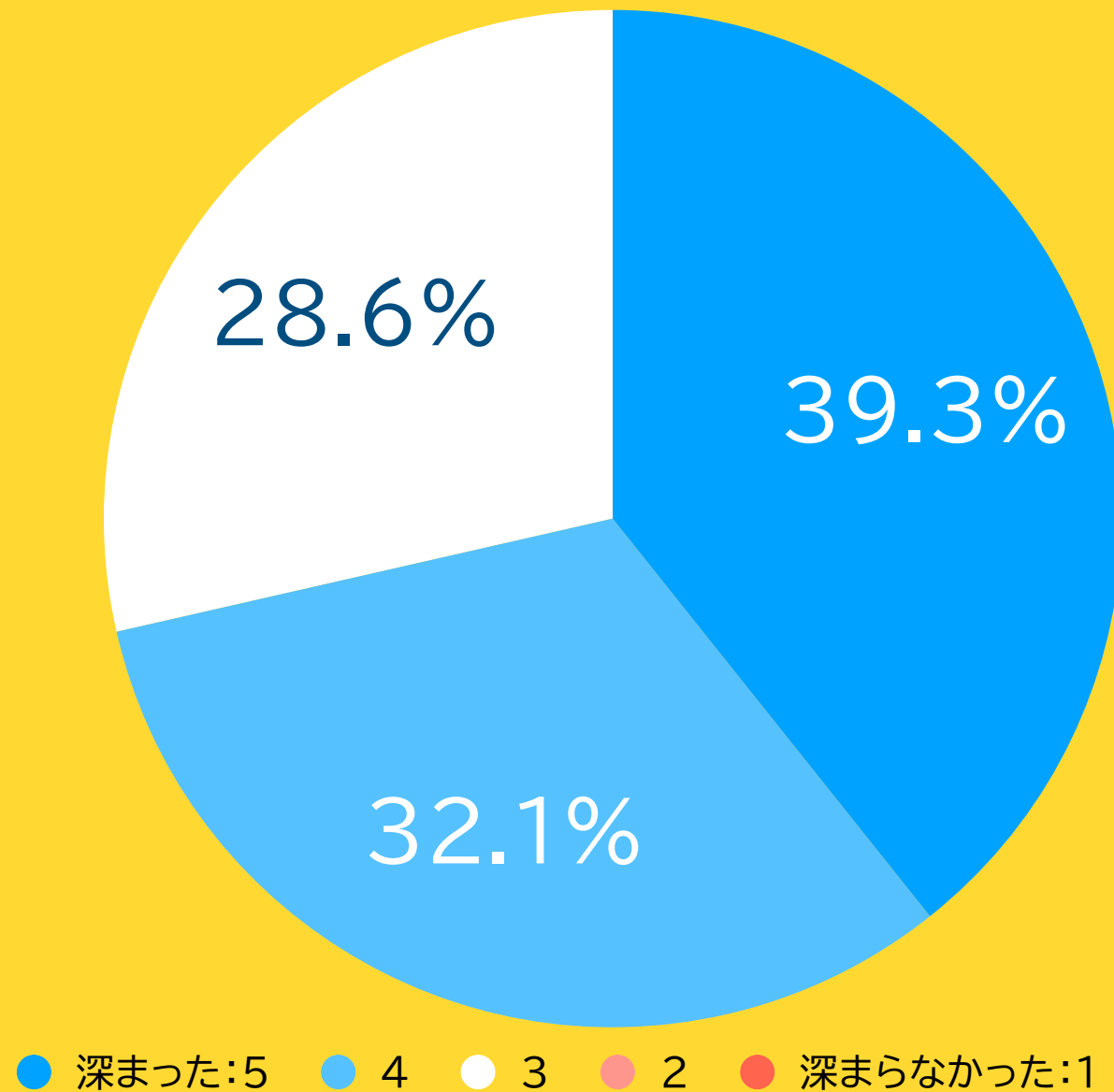
2→3名

1→1名

今回のワークショップ形式による検証の取り組みはいかがでしたか？の問いに対し、4以上の回答者が概ね3分の2で、新しい形式(ワールドカフェ方式)が好意的に受け止められている。

②実施後アンケート結果

本条例への理解



深まった(5)～深まらなかった(1)の
5段階評価／**平均4.11**

ポジティブ回答:71.4%

5→11名

4→9名

3→8名

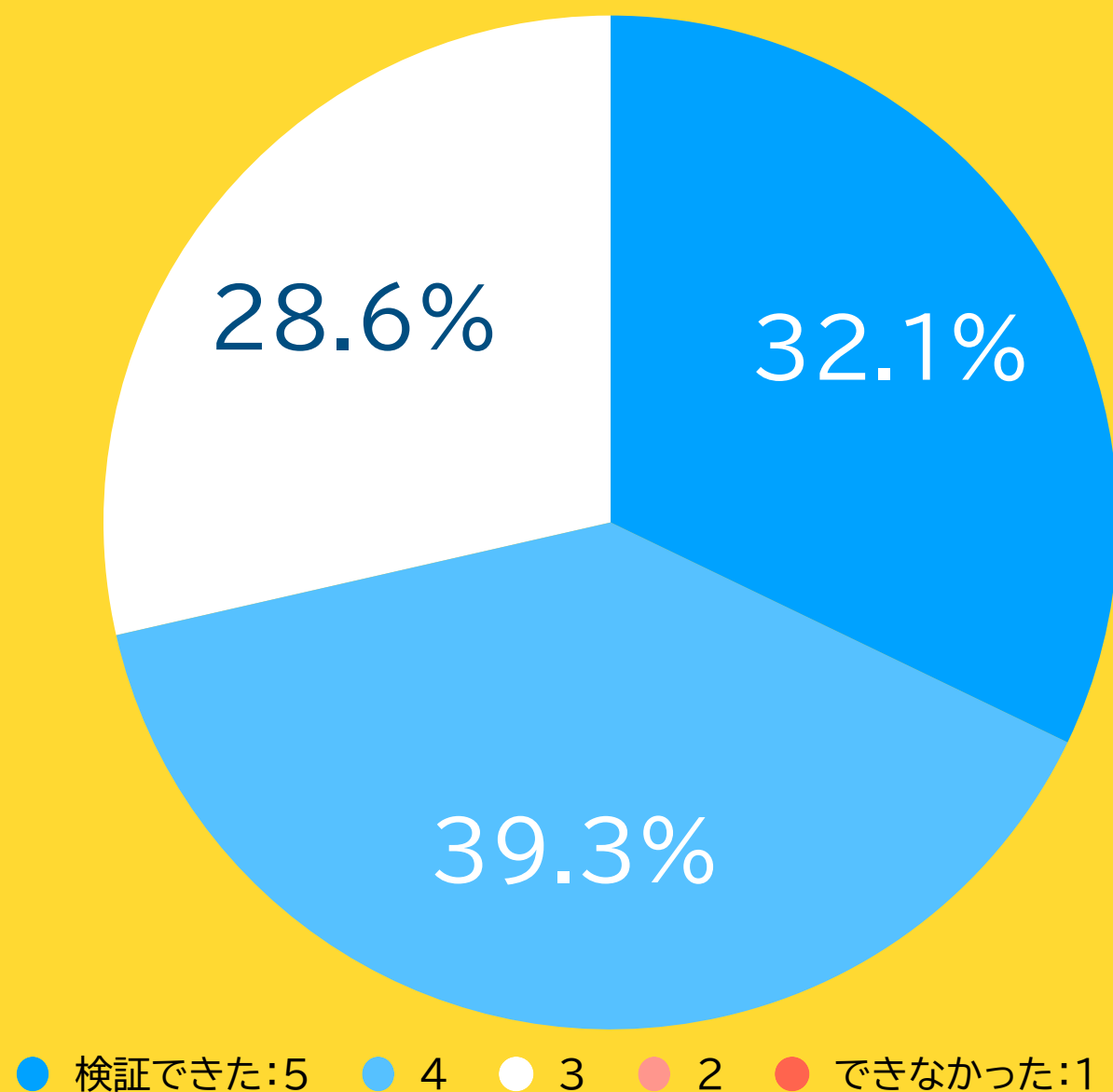
2→0名

1→0名

本条例に対する理解は深まりましたか？
の問いに対し、
4以上の回答者は20人、ネガティブ回答
は0人で、学習・研修効果が高かった。

②実施後アンケート結果

検証の実効性



検証できた(5)～できなかった(1)の
5段階評価／**平均4.01**

ポジティブ回答:71.4%

5→9名

4→11名

3→8名

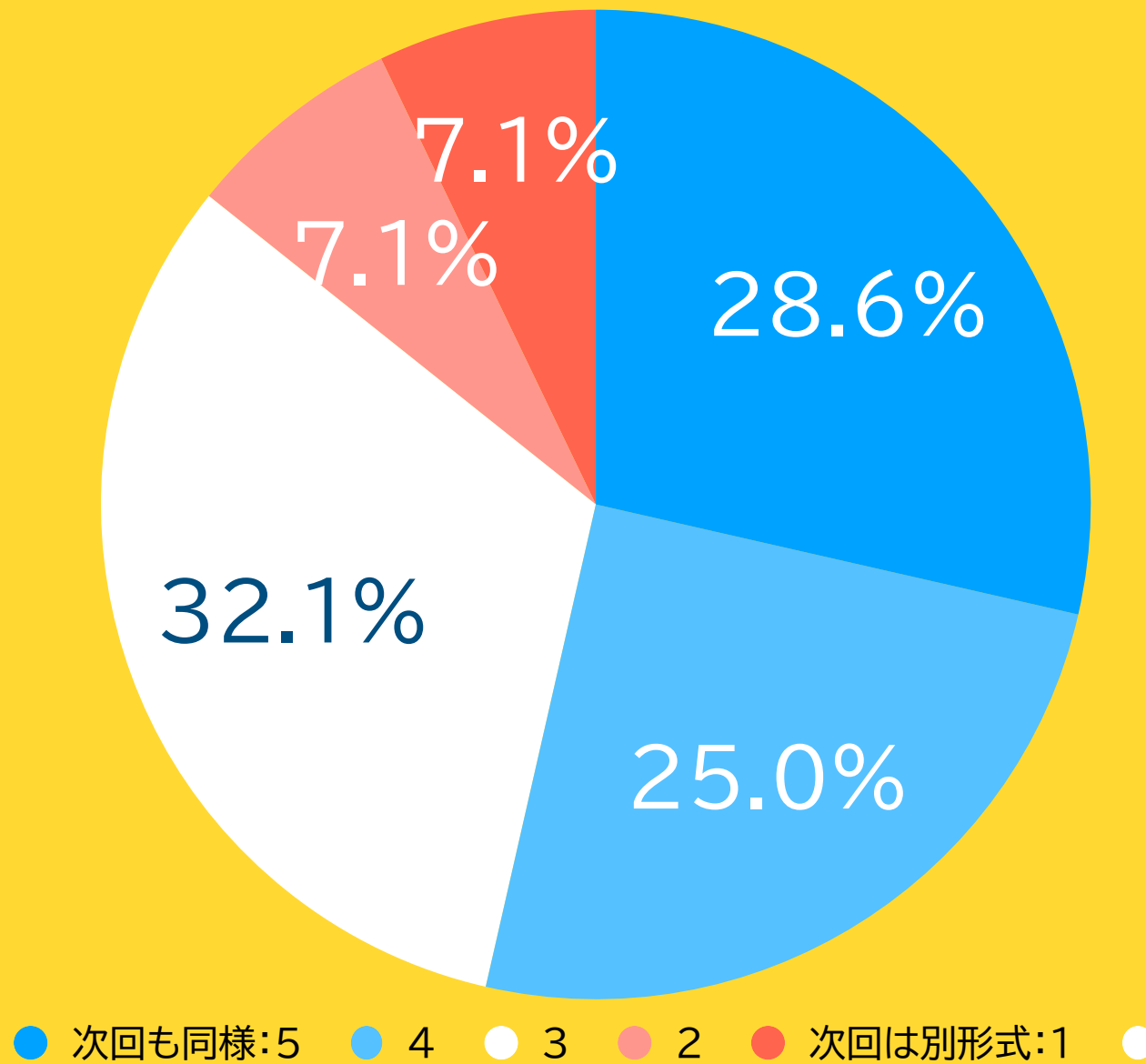
2→0名

1→0名

自身の活動や議会の取り組みを振り返り、
検証はできましたか？の問いに対し、
4以上の回答は20人、ネガティブ回答は
0人で、自分たちの活動や議会の取り組み
を「検証できた」とする手応えを感じてい
る議員が多い結果となった。

②実施後アンケート結果

次回実施の形式



次回も同様(5)～次回は別形式(1)の
5段階評価／**平均3.61**

ポジティブ回答:53.6%

5→8名

4→7名

3→9名

2→2名

1→2名

次回も同様の形式で取り組むべきと考え
ますか？の問いに対し、

4以上の回答は15人、ネガティブ回答は4
人で他の項目よりやや低め。「全条文をや
るのは大変」「項目を絞るべき」との別の問
いへの回答からも改善への期待が伺える。

②実施後アンケート結果

1)ワークショップ形式(ワールドカフェ)への評価

●垣根を越えた交流: 「会派や当選回数の垣根を越えた意見交換ができた」「期の長い議員の昔の話を聞いたのは貴重だった」といった声が多く、議員間のコミュニケーション活性化に大きく寄与。

●発言のしやすさ: 全員が発言できる環境や、他者の発言を否定しないルールが「リラックスした中での活発な議論」を生んだと良い評価。

②実施後アンケート結果

2) 条例運用に関する具体的な課題と議論

いくつかの条文について具体的な意見が出された

●第2条・第6条(市民参加・広報): 議会報告会の開催是非については意見が分かれたものの、SNSを活用した能動的な情報発信の必要性についていくつかのアイデア

●第4条(政治倫理): 無断欠席・遅刻の問題が指摘され、集計公表などの改善策や倫理条例のアップデートの必要性に触れる意見

●第5条(災害対応): 参集ルールなどのマニュアルと、避難所での具体的な役割分担といった「現場の実効性」に不安を感じる意見

●第12条(議員間討議): 導入に際しては、厳格なルール(ガイドライン)が必要であるとの意見

●第15条(議会事務局): 「ムダな事務を減らし、調査研究機能を強化する」との意見

②実施後アンケート結果

次回(次期)開催に向けた改善に関する意見

- 項目の絞り込み: 1日で全条文を検証するのは時間が足りないため、事前にアンケート等で「課題がある」とされた条文に絞って深掘りする形式の提案
- 検証の客観性確保: 議員同士だと「お手盛り」になる懸念があるため、第三者評価の導入や、統一されたチェックシートによる定量的な評価を求める意見
- まとめ方の工夫: 最後の発表は代表者一人の志向性に左右されやすいため、より客観的な集計方法や、他のグループの意見を聞いた後に自グループで振り返る時間を設けるべきとの指摘
- 進行役(リーダー)の役割: 議運メンバーが進行を務める際、最初に口火を切ることで議論が円滑に進む一方で、メンバー(特に新人)の意見を引き出すファシリテーションスキルも求める意見

まとめ

本条例18条に基づき、任期に一度(4年に一度／中間時期)の検証を実施することとなり、今回、ワークショップ形式により試行的に検証を行った。

今回の検証では、本条例を「形骸化したルール」に終わらせることなく、議員一人ひとりがその活動の規範として認識できているか、さらに議会として条例の目的を達成できているかを検証する重要な機会として一定の評価を得ることができた。

検証の形式については概ね高い評価を得た一方で、実施時間については賛否が分かれる結果となり、次回への課題となった。

また、不断の改革を行うという条文の実効性を担保する観点から提案されたいくつかの意見については、改めて精査の必要があると考える。